

SKY DOG[®] SPORT

vol.4

The 2003 Ashley Whippet Invitational Canine Frisbee[®] disc World Championships



世界に旅立ったフリスビー選手たち

JFAメンバーの皆さんへ

JFAメンバーの皆さん、いかがお過ごしでしょうか。6月に入り、梅雨の季節という事で、愛犬の体調も気になる時期となりました。そして、あっという間に夏の訪れです。海水浴、川遊びに出かける方も数多くいる事でしょうが、日射病・熱射病には十分気を付けて、夏を乗り越えてほしいと願っております。

2003年も既に後半戦へと入りました。設立より10周年を数え、皆さんへはお知らせ済みですが、日本に於いて、世界選手権をJFA独自にて開催いたします。予選会の方も熱戦が続いており、又、来日選手への話し合いも進めています。この機会に是非、世界へ挑戦してみたいかがでしょう。

今年の2月には、歴史的フリスビードッグ世界選手権"The Ashley Whippet Invitational Canine Frisbee Disc World Championships"がアメリカ、ロサンゼルス市のラ・ミラダにて開催され、日本のトッププレイヤーがフリーフライト部門（Open competitorsと名称）に9チーム、ディスタンス部門（Amateur divisionと名称）に2チームが参戦しました。各選手、素晴らしい成績を残し、無事帰国しました。

World Championshipsに参加した選手の参戦記をここにご紹介します。



早川利幸&BEAT

2003年2月23日

アメリカ、ロサンゼルス。初めての大会を見学したのを含めてフリスビードックの大会のためにアメリカに来たのはこれで3回目になる。ワシントン、アトランタ、そしてロサンゼルスとそれぞれ場所は違っているがやはりフリスビードック発祥の国としていつ来てもわくわくしてくる。

特に今回は歴史のあるアシュレイウィペット、インビテーションルの大会が復活してその大会に参加出場できることはフリスビードックにかかわっているものとしてとても名誉なことだと思う。

日本にいる時から情報で気温が20度以上になるのではとは思っていたが日本のむしむしさはないがやはり暑い！大会前日の練習でもいつものように動かすとビートも少しバテが早いみたいだ。ただ今回の会場の芝生は綺麗に張れてはいるが日本の芝生と違い少し長くどちらかと言うと牧草に近い感じだった。そのせいで少し動きがとられていることもあるだろうと思う。

ビートの体調もいいようだ。

今回の大会は何とか結果を出したいと思っていた。でもオープンディビジョンの参加チームは60チーム弱の参加になる。まずは予選第1ラウンドのフリーフライトで20チームに絞られ、次に第2ラウンドでディスタンスとフリーフライトを行いそこで上位12チームを決めてやっと翌日の決勝ラウンドに進出することができる。

決勝ラウンドに進むためにアメリカに来る前から予選のルーティーンと決勝のルーティーンをまるっきり変えて練習を繰り返してきた。2つのルーティーンを練習。することによってビートにかかる負担を増やしてしまったことが申し訳なかった。予選のルーティーンはミスを少なくする安全性を重視してビートが確実にできる確率の高いトリックをつないで作り、万が一風が強いことも想定してグラウンドでの低い位置のトリックはいつもより多く入れた。でも自分とビートの一番アピールしたかった部分のスピードとルーティーンの流れを殺さないように、またできるだけ落ちているフリスビーを拾っている間にもビートがうろうろしているような無駄な時間がないようにルーティーンで構成した。その結果90秒でスムーズにこなせて33投、ミスが多ければ30投の構成をつくった。普通25投前後の構成になるので15秒分くらい多い投数なので自分もその分機敏に動かなければならなかったのがかなりきつかった。なのでアメリカに行くまでの練習はいままでより多くの時間を犬なしでのフリールーティーンの練習を多く費やした。投数がおおければいいわ

けではないが今回はこれで挑戦してみたかった。でもアメリカのジャッジにはせせこましく思うらしく寸評にもディスクマネージメントは良いがもっとゆっくりとというコメントもいただいた。しかしこれが自分のチームの持ち味なのでかえるつもりはないが何人ものアメリカ人のプレーヤーにいいルーティーンだったといってもらえたことがとてもうれしかった。

予選第1ラウンド、30投中5投ミスだろうか、少し簡単なミスがあったけれどもまあ1ラウンドめにしては満足のいく出来だった。思っていたとおりショーマンシップとエキセキューションはそれぞれ9ポイントと高い得点を得ることができた。でもディフィカルティーは安全性を重視したせいで8.5ポイント。一番ビートに欠けているリーピングも8.5ポイントと若干低かったがトータルで35ポイントでとりえずベスト10には入りいい位置につけることができた。

次のディスタンスは何とか無難にこなし、明日の決勝に残るためには次のフリーフライトの演技で決まることになる。第3ラウンドフリーフライトが始まる。残った他の日本チームのメンバーもアメリカチームもみんないい出来だった。それを応援したり見ているだけでもとても興奮して楽しかった。いよいよ自分の番、立ち上がりもスムーズにこなして32投中3投ミス今大会で一番いい出来の演技だった。ショーマンシップは9ポイントとエキセキューション9.5ポイントはそれぞれ高い得点を得ることができたがやはりディフィカルティーは8.5ポイントで少し低いそれでもリーピングは9ポイントを取ることができトータル36ポイントを獲得して翌日の決勝ラウンドに進むことができた。

翌日、決勝ラウンド。昨晚、ちょっと眠れそうになかったのでいしょに行ったメンバーにももらった睡眠薬を生まれてはじめて飲んでぐっすり眠ろうと思ったが結局3時くらいには目が覚めてしまった。

前日の予選で上出来の3位で通過した。今日最初の競技はディスタンスからだ。ここで一気にトップとの差を縮めておきたかったが5投パーフェクトキャッチだったがイマイチ距離が短く無難なポイントで終わってしまって差を縮めることができなかった。

いよいよ最後にフリーフライトの演技、アメリカに来てはじめて決勝バージョンのルーティーンのやることになる。ちょっと大袈裟だが決勝バージョンは予選の時より技のバリエーションを増やしてトリックスローも少し入れてできるだけアメリカチックに構成をつくってみた。ちょっと心配なのは予選のルーティーンがやっている途中に頭によぎり迷わないかだ…。

いよいよ演技、スタートはスムーズに行ったがその後……ヤバイ!!!思っていたことが現実。ふっ、と違うトリックをしてしまおうと思ってしまつてタイミングがずれてしまった。少し乱れてしまったがなんとか立て直して5投のミスで演技は終わった。ショーマンシップは9.5ポイントの高い得点とエキセキューション、ディフ



イカリティーリーピングはそれぞれ8.5ポイントを獲得してトータルで35ポイントだった。

また決勝ラウンドで、優勝した安定したボブエバンスの演技も良かった。特筆すべきはボブエバンスのプレイに対する姿勢だ。フリーフライトの競技は総合力の勝負だ。フリーだけ良くてもいけないしディスタンスだけ良くてもいけない。彼は自分の弱点を良く知っている。70才にもなる彼が大会当日までの練習で自分のチームの弱い点のディスタンスの練習を人一倍練習を繰り返していた。割と練習をする日本チームよりも練習を続ける彼のプレイに対する真剣さを感じられ脱帽だった。また一番アメリカに来て感動したのは準優勝したボン&チョコのチームの演技だった。フリスビー狗狗をやっていて初めて見た一つもミスのないパーフェクトキャッチの演技は39.5ポイントという素晴らしいポイントを獲得して見ていて鳥肌がたつようだった。これを見ただけでもアメリカに来たかいがあるようだった。本人も相当うれしかったらしく演技が終わったあ

ところがりまわってよこんでいた。フリーフライトをやっていてパーフェクトキャッチの演技は目標のひとつでは自分もやってみたいと思った。

結果は、今回の目標であった結果を出すことができ2人の元世界チャンピオンの次につく3位入賞を果たすことができた。

今回の大会は60チームに及ぶプレーヤーのプレイを目の当たりにしてアメリカのフリーフライトの奥深さや楽しさを見ることができとても楽しく興奮してあらためてフリーフライトの楽しさを実感できることができた遠征でした。

最後に、ビートはホントにいい子になってきた。飼い主の望むいい子になってきた。飼い主のわがままかもしれないが、若かった時の人を受け付けなかったビートが信じられないくらいいろいろなものを吸収して成長してきた彼女をいとおしく思いとても可愛く思いそんなビートに脱帽である。

Ashley Whippet CANINE FREIBEE DISC WORLD CHAMPIONSHIPS

高坂健一&Mousse

今回の参戦で渡米は3度目の高坂Mousseチームだが、日本が冬で寒い時期、ロスは、比較的暖かい時期と聞いて、Mousseの体力的な事がとても気になった。

実際の会場練習の時には、Mousseはバテ気味だった。

大会前日のピザパーティも楽しかった。

貸し切りだと思って行ったが一般のお客さんと一緒に出場者の参加も少なかったがピザ屋の店内の一角はフリスビーショップとなっ

てしまうほどフリスビー交換や、販売所になってしまった。

大会当日は、前回のアトランタで一緒にプレーした、ボブ・ニックチームやチャック・ドニーチームと挨拶を交わした。

参加プレイヤーのレベルは、前回のアトランタより高く素晴らしいプレーの連続だった。日本人プレイヤーも大健闘だった。

今回、大会をサポートしてくれた、JFA日本フリスビー狗狗協会、DISCOVERING THE WORLD、USAスタッフの皆様、そして、応援してくださった皆様、ありがとうございました。



アシュレーウイペット 世界選手権参戦記

林 康男&愛鈴

2月19日(水)

今日は息子の高校受験日、AM7:30息子を、友達の家まで送って行き、AM9:00愛鈴と成田空港に向けて出発。

首都高速で多少渋滞があったが、予定より1時間早く着きそうだった為、成田検疫所の係留設備を見学してゆく事にした。1時間前

の予約だったが、検疫所の人は快く引き受けてくれて約30分間設備の見学に付き合ってくれた。16日間愛鈴を預ける訳だけれど、世話をしてくれる北村さんとも話しが出来安心する事ができた。

成田空港で小川IDANチームと合流。検疫を済ませ、いざロサンゼルスへ出発。

飛行機は約30分遅れてフライト、LAX着は予定より60分遅れて到着。さらに入国審査にもたつき、空港を出たのが12:30頃。

今回は3グループに分かれて渡米した訳だけれど、私のチームが最終便でしかも60分も遅れて1便の人には3時間も待たせてしまった。お待たせした皆さん申し訳ありません。

この日はホテルに着くと一日ゆっくりと過ごす。

部屋は思ったより広く綺麗で合格!! 勿論愛犬と一緒にねんね!!

2月20日(木)

AM10:30よりディスカバリー社見学に向け皆と出発。

ディスクを作っているところが見れると思っていたが、販売店兼倉庫とプリント機が有るのみ、少し残念。

でも色々珍しいディスクが有り、皆んな買いまくっていた。私もつられて、衝動買い。

午後からは、愛犬と大会会場視察。

広さは十分だけれど日本に比べ芝生が深く、犬の足がとられそう。又完全に平坦でなく若干の傾斜有り気になったが、競技をする上で問題となるレベルではなさそう。

軽く練習したが、風もなく、愛鈴の調子も良さそう。

PM8:00

獣医による健康診断。

狂犬病のワクチンの種類が書いてないと聞いてヒヤリ。

検温に慣れてなく、嫌がる愛鈴を押さえ込み何とか終了。

2月21日(金)

AM8:30 大会会場に向け練習に出発。

日中は23度程度に気温が上がる為、涼しい午前中に愛犬を大会会場に連れて行き練習することにした。

グラウンドは芝に水が撒いてあり、滑りやすい状態。しかも芝が深く滑るためか、昨日と違いトスの高さや愛鈴のジャンプのタイミングが合わずに、ミスキャッチの連発。

何だか嫌な予感。

怪しいスパイダーマン2の映画スタッフが現れ、たくさん写真を撮られる。

1時間半程度練習をしてホテルへ帰る。

PM0:00再び大会会場に向け出発

今度は、愛鈴はホテルで留守番。

会場に着くと参加選手が続々と登場。

ボブ エバンスも来ており、ディスタンスの練習をもくもくとしていた。

アメリカの大会に来たんだな〜と少し実感が湧いてくる。

早川さんに投げ練を付き合ってもらって汗をかく。

湿度が低い為か汗をかいてもとても爽やか。

PM6:00 アメリカの選手とのピザパーティー

パーティー会場につくと既にアメリカのチームは出来上がっており、乗り遅れの感があつた。

前夜祭と思って参加した、ピザパーティー、しかしこの後想像を絶することが始まるにはそんなに時間はかからなかった。

なんと、ピザレストランでTシャツ、ディスクの販売、交換会が始まったのだ。

アメリカ人がバックに詰めたディスクTシャツを持ってきてこれを、日本人選手が自分のディスクとトレードする。ここまでなら、微笑ましい光景と思うが、なんとレストランのテーブルに商品を飾り盛大に売買取りが始まったのだ、ディスクコレクションが無い私にとってはあきれずにはいられなかった。

ホテルに帰ると、愛鈴が眠そうな顔をして出迎えた、鼻を触るとカラカラに乾いていた。

もうすっかり、ホテルの部屋に慣れたようだ。

2月22日(土)

いよいよ大会予選当日。

AM7:30 会場に向け2班に別れて出陣。快晴 微風 コンディションは上々。

愛鈴は現地が準備してくれたテントの下、ケージに入れて待機させておくことにした。

何だか、プログラムも無く、何時始まるかわからない1次予選が両国の国旗掲揚とともに始まりいよいよスタート。

出番は37番のため、ビデオカメラを片手に座って他選手の演技を観戦することにした。

アメリカ選手のスローイングの多様さとキャッチ率の高さ、又アピールの上手さに驚く。

日本選手も次々に出場してゆく。

好調だ!!

たどたどしい言葉で「ハヤシ アイリーン」とコールされる。

いよいよ出番だ。緊張の為か、息苦しい。気持ちをほぐすために、日本チームに向け手を上げてアピール。

曲がスタート。緊張の1投目、トスが少し高くミスキャッチ。芝に愛鈴の足がとられたのだ。

これはまずいと思い、トスの高さを低くして演技再開。トスが低すぎて愛鈴のフリップが決まらない。

頭の中が真っ白になり、ルーティンを忘れてしまった。愛鈴が勢い良く向かってくる。何とか体を交して中途半端なボルトでクリアー。腕が伸びずにディスクの安定性が悪い。でも愛鈴が斜めになったディスクを次々にキャッチしてくれる。3投ミスキャッチで最後見せ場のルーティンを迎える。連続キャッチOK、勝負見せ場のバタフライバックボルト、残念ミスキャッチ。

諦めずに再度挑戦。愛鈴が見事にキャッチ。

けれど、満足できる演技ではなかった。

得点にも現れ。次予選は33.5ポイントで3チーム同点10位で通過。1位はボブエバンスの37ポイント。

この時点で60チームから22チームに絞られる。

2次予選のディスタンス

右からの軽い追い風。

日本と違い、レディーが無く、いきなりGOになる。

リズムが崩れ1投目は低すぎ、ミスキャッチ。

残り3投を愛鈴がキャッチしてくれ8.5ポイント順位は変わらず10位ぐらいだと思った。

トップボブは確か14ポイント?。トップとの差は更に広がる。

2次予選フリースタイル

明日の決勝に出れるかどうかは、このフリーにかかっている。

「ハヤシ アイリーン」とコールされる。

緊張をほぐす為に、日本チームに向け手を上げてアピール。 反応が少ない。(淋しい)

再度アピール。今度は皆声援を送ってくれた。(日本チームの皆さん有り難うございました)

曲がスタート。

1投目のバックフリップ。見事にキャッチ。高さも十分。

続けて4投連続キャッチ よーし のるぞーと自分に言い聞かせ体でリズムをとる。

愛鈴が次々と高いジャンプで確実に決めてゆく。

2投ミスで最後のルーティンに入る。チェストバックボルトからバタフライバックボルト見事に愛鈴がキャッチ。

ガッツポーズ。ミスは有ったものの今度は自分で納得できる演技が出来た。

ケージの前で愛鈴に何度も有り難うといった。フリスビーをはじめてこんなに嬉しかったことは無いぐらい嬉しかった。

このとき初めてアメリカまで来て良かったと思った。

得点は36ポイント予測どおりの高ポイント!! 心配していた二次予選を7位で見事通過。安田ハーツチームと握手して喜んだ。このラウンドのボブ・エバンスは36.5ポイント、トータルでダントツトップ。ボブとの差は11点 もはや優勝は諦めざるを得ない物の、決勝進出ポイント3位早川さんとの差は3点で表彰台のチャンスは十分あり。

明日の決勝に勝負をかける事にした。

安田信二&ハーツ

2月19日出発の日、8時30分鹿児島発の便に乗る為、搭乗口付近で待っていると、突然のアナウンス「機材整備のため出発が遅れます。そのままお待ちください。」。同じようなアナウンスが数回流れ、とうとう出発時刻になっても案内がない、おかしいと思いながらなにげなく飛行機を見ていると、何と機体がトラックに牽引されて行くではないか！すごく嫌な予感…。またアナウンス「機材整備に時間がかかる為、9時50分発の便に振り替えます」マジでやばい…。顔が青ざめる…。なんとか、少し早い他の便に振りかえてもらったが、羽田に迎えに来るはずの高坂さんとも連絡がとれない。高坂さんの奥さんに連絡し事情を説明。落ち着かないまま飛行機に乗り込み11時30分羽田に到着、到着ロビーに高坂さんを見つけひと安心。

成田までの道中、前回のアメリカでの話して盛り上がり、いやがおうにも期待が膨らむ。ロスまでのフライトは長かったが、意外に快適で機内食のビビンバもなかなか美味。

ロス到着後、荷物を受け取り早速ハーツを探す。バリケンを見つけ中を覗くと久しぶりの再会にうれしそうなハーツ。早く入国を済ませ排尿させたいのだが、ここでまたトラブル発生。ドッグフードにUSA産の表示がない為、持ち込む事ができないらしい。抗議したくても早口の為、言葉が理解できない、本当にくやしかった。

上田さんにレンタカーでペットショップに連れて行ってもらったが、同じフードが見つからずとりあえず他のフードを購入したものの、やはり突然の環境の変化と食べられないフードの為に便がゆるい。事前に調べておけば、こんな事にはならなかったはず…。いまさら自分を責めても仕方ないので、なるべく一緒にいる時間を作り、できるだけハーツにストレスを感じさせないように努力した。ハーツ自身は見た感じでは、いつも通りの能天気な表情。そうこうしているうちに、大会前日には何とか便も固まりひと安心。

大会前日は、アメリカの選手と一緒にピザパーティ。最初は、いまいち溶け込めず静かなパーティがスタートしたが、小川さんが自分のTシャツにサインをもらった頃から急展開。サイン入りディスクの交換やレアもののディスク販売とちょっとした即売会。勢いにまかせ派手なTシャツを購入した。JFAの公式戦で着ちゃおうかな、とても普段着で歩けるデザインではないし。

いよいよ大会当日、会場はほとんど正方形。長さが短いのでミドルスローの距離のコントロールが難しそう。ハーツを軽く動かしてみたが、いつもどおりでいい感じに仕上がってる様子。後は自分次第…

1R目、いつものようにフィールドに入りスタンバイし音楽スタート。ところがフィールドで聞く音楽の音量がやたら大きい。コマンドが届くのか？ハーツは驚いてないか？ハーツを見ても全く気にしている様子もない。自分も適度な緊張でいつもどおり。

新たに練習してきたジャグリング？練習でもミスが多かったの

で当日まで使うかどうか迷ったが、開き直り結局使うことに。案の定バタバタしてしまったが、なんとかクリア。バックフリップも今回新たに練習してきたが、これは、綺麗に回転してくれた。勢いにまかせたマルチプルは一投ミス。結局、3から4投ミスし、ドッグキャッチでフィニッシュ。ハーツを抱きかかえながら、目頭が熱くなった。ワールドファイナルに出場できるなんて夢にも思わなかった。ここに連れて来てくれたハーツ、長旅を感じさせないパフォーマンスしてくれたハーツに心から感謝。

2R目、ディスタンス。前々からハーツのディスクの離しが悪く、力が入ってしまい焦る為に距離がでないという悪循環の繰り返し、今回は、ディスタンスに時間をさいて練習をしてきた。1投目、ジャンピングのタイミングが合わずミスキャッチ。2, 3, 4投目無難にキャッチし離しも良かったが、5投目残り数秒の為焦ってしまいそれがハーツにも伝わり離さない、すっぽんのようにディスクにぶらさがったまま…。「そのまま投げてしまえ！」とMCの声、会場は笑いの渦。かなり恥ずかしかったが、自分としては練習の成果が出たのでそこそこ満足。これからハーツとのディスタンスも楽しいものになるといいのだが。

翌日、決勝ラウンド、今日も天気は最高だが、若干風が強い。それにしても始まらないいつまで待っても始まらない。アメリカ人の気質なのか？そろそろ始めようかという感じで集合がかかったのが、10時半頃。自分を落ち着かせる為に、軽くアップするが、もともと蚤の心臓、落ち着くはずもなく本番を迎える。とにかく萎縮せずおもいきり弾けよう、そのことだけ考えフィールドに入った。がやはり緊張の為か、トスがいまいち結局5, 6投のミス。加えて練習不足のため10秒余してフィニッシュ。時間を聞いている余裕があれば、数投加えることもできたのだが。改めて、ドッグスポーツはメンタルスポーツであることを痛感した。

今回、結果はとにかくアメリカの選手達の楽しく魅せる演技を間近に見ることが出来たこと、他の日本チームと交流が持てたことそしてその場でプレーが出来たことは自分にとって貴重な経験だった。

最後にハーツを応援してくれた方やいろいろ配慮していただいたJFAのスタッフそしてすばらしい演技を見せてくれた日本チームに感謝致します。



世界大会出場のチャンスは突然に

村上行弘&Kelly

それは世界大会開催の2ヶ月前のこと日本での選考大会が開催されるという情報が耳に入り日本フリスビードッグ協会に確認したと

ころ選考大会は8戦行い優勝チームのみ出場権を与えるとのことでした。

昨年はパートナー：Kellyが足の負傷により満足なトレーニングが出来ずチャンスを掴む事が出来なかったのが今年では世界大会出場を目標に調整を行うつもりでしたが突然の選考大会でコンビネーションやルーティーンはとても完成度が低く出場権の獲得がとても難しい状態に有りましたが、千葉県で選考大会で優勝することが出来、今年の目標であった世界大会に出場が決まったことで気持ちが楽に

2月23日(日)

決勝当日

時差を除いては夜は緊張もなく良く寝れた方だ。

AM7:30 ホテルを出発

天候は薄曇り、風はほとんど無風。

決勝ラウンドディスタンス

またまた試合が何時始まるかわからない状態、9:30頃何となくディスタンスが始まった。

ディスタンスで4投キャッチで最後のフリースタイルで表彰台を狙うつもりでいた。

みんな好調にキャッチを決めポイントのをばしてゆく。

いよいよ自分の番がきた。練習投は完璧 良好に行けるぞと思ってスタート。1投目無風なのに右に流れてタイミングが合わずミスキャッチ。あれあれおかしੀ?? 2投、3投ともにまともなスローイングはできていない。

愛鈴が頑張ってキャッチ。4投目はショート、にしようか悩んだ状態で中途半端なスローイング、下に突き刺してしまった。トータル6ポイント事実上表彰台は諦めざるを得なかった。

ディスタンスの不調で7位から11位に後退。この時は自分に対して情けなくて仕方がなかった。ケージの前で愛鈴に謝った。

決勝ラウンドフリースタイル。

順位にこだわらず、自分に納得のできる演技をアメリカ人に見てもらいたいのではないかと、落ち込んだ自分に言い聞かせていた。

順位が低い順からスタートしてゆくため、自分の番はすぐに来た。

観客も多くなってコートまわりの陣取って見ている。風は気のせい少し出てきた。

何度聞いても可笑しいだどしいアナウンスで「ジャパニーズコンペティター ハヤシ アイリーン」とコールされる。

緊張をほぐすために手を上げて出ると、日本チームのみんなも大きな声援を送ってくれている。

正面の観客の人と目が合って、手を振るとたくさんの人が拍手で答えてくれた。嬉しかった。

音楽スタート。

いつものバックフリップからスタート、愛鈴のジャンプも高く次々にキャッチを決めてゆく。調子がいい。

ボルトもきっちりと決まる。観客から拍手が聞こえる。

120秒演技のため、新しくルーティンに加えた、マルチプルからフリップ、サイドスローのコンビネーションも何とかクリアー。

1投落としの状態最後のルーティンに来た。チェストバックボルトに向け愛鈴が走ってくる。ジャンプするタイミングになっても未だディスクをくわえている。「まずい、このままでは、ボルトができない」、すぐに体を入れ替えて愛鈴に「出せ」のコマンドを入れる。すぐに愛鈴が出し、流れを大きく止めることもなく、チェストバックボルトを決めた。続いて風向き調整のためのバックボルトこれも確実に決まった。最後の見せ場バタフライバックボルト。思い切ってトスした。愛鈴が高い弧を描いて飛んでゆく、頂点より少し落ちたところでディスクの端をキャッチ。

決まった!!! 思わずガッツポーズ。観客からの拍手を受けながら

手を振り退場した。

退場してからも、周りの人が「Good Job」と声をかけてくれた。「やった120%の出来だ」またまた嬉しかった。

得点は36.5ポイント ポブ、エバンスと同じ同点2位のポイントだった。

目標の3位以内入賞は果たせなかったが、大きな満足感を得ることができた。

結局最終的には最後のフリーで4つ順位を上げて7位で終わった。

2月24日(月)

AM6:30帰国に向けホテルを出発。

空港に着いてフライトまで4時間程度有るため、小川IDANチームとぎりぎりまで犬を外に出しておくことにした。

10:20頃 フライトの約1時間半前にチェックIN

25日(火) ほぼ定刻成田空港着。

バゲージクレームエリアに連れて来られた愛鈴が私の声を聞くと、「キューキュー、キャン、キャン」と甘えて鳴く。犬が居ると周りに人が集まってくる、なんだか恥ずかしい。

入国検疫 無事終了 2週間の検疫となる。

係留所の北村さんと契約を交わして愛鈴を渡す。

これで愛鈴とも2週間のお別れ。

PM6:00駐車場から自分の車を持ってきてもらい、約5時間の帰宅の路についた。

あとがき

未だ愛鈴の係留期間(3月12日終了)が終わっていませんので、遠征は終わった訳では有りませんが、今回の遠征は出発の前夜まで、行くほうが良いのかやめる方が良いのか悩んでいました。

しかし今は参加してみて良かったと思います。

アメリカのトッププレーヤーの演技を直に見ることができ、自分を含め日本人プレーヤーが見習わなければならない点も多々気付く事ができました。又参加することにより人の輪をまた一つ広げる事ができました。

日本のレベルは相当高い所に来ていると感じました。

これからの努力によっては世界チャンピオンも充分射程距離にあります。

私だけでも知れませんが、もしもつと風が強かったらアメリカチームのルーティンと日本チームのルーティンを比較して推定すると、日本チームはもっと良い結果になったかもしれません??。

来年参加されるチームの皆さんは是非世界チャンピオンを目指して頑張って下さい。

そのためには日々の練習の必要性をひしひしと感じています。(私には無理かな???)

今回の遠征にあたり協力応援してくれた家族 FKDCの皆さん。又現地で協力してくれたJFAスタッフ、USスタッフ、日本チームの皆さんに、この場をかりてお礼を申し上げたいと思います。「有り難うございました」



なり、それと同時に世界大会までの時間が無いことに焦りを感じました。それでも自分とKellyとの中でやれる事は全て準備して世界大会に挑戦したが結果として13位で1.5ポイント足りずファイナルラウンドには……………応援してくれた仲間の期待には応えられなかった事がとても残念でしたが、これもすべて実力としてしっかり受け止め、次回に繋げたいと思います。

今回、世界選手権に出場しあらためて感じたことは四半世紀という歴史がありながらフリスビードッグはドッグスポーツではなくレクリエーションの感覚であり、他のドッグスポーツ（犬ソリ・アジリティー・フライボール）とは歴然と差があること。アメリカの選手との交流でいろいろ話を聞くことができ、日本の情報がまったくアメリカには伝わっていないこと。日本では伝わっていないアメリカでのフリスビードッグの現状。などなど沢山のことがありました。

これからはアメリカとの交流をより深めて正しい情報を交換出来るようになること、ドッグスポーツとしてのフリスビードッグを高いレベルで確立していくことをプレーヤー並びに日本フリスビードッグ協会には期待しております。

最後に、世界大会出場のチャンスを与えてくれた日本フリスビードッグ協会並びに応援してくれたTHA N.P.Aの仲間たちに感謝いたします。そして更に「スグエー」パフォーマンスをお見せする事をお約束いたします。



世界選手権

多々良憲司&Core

2003年1月、村上&Kellyチームから、「俺、ロサンゼルス世界選手権に行く事になったから」と、言われた。私は「えっマジで？俺も行きたい」と言ったものの、私は当時JFAの会員ではなく、大会への出場権がなかった為、急遽会員になり埼玉の大会にエントリーしたが、急に「その大会からは選抜されないの、播磨が最後です。」と言われたので、新幹線でCoreと一緒に播磨の大会へ赴いた。私達にはその大会で優勝する自信はあったが、2位に終わった。これで、アメリカへの道は断たれたと肩を落として、家に帰った。しかし、すでに選抜されていた安田&ハーツチームが2回優勝していたので、枠が2つあまっていたらしく、選抜大会で2位以下のチームのポイントが高いチームから選ばれる事になり、私達が最初に声を掛けられ、世界選手権に行ける事となった。

今、私とCoreのやっているルーティーンでは世界に通じない事は、解っていたので。すぐに改良をすることにした。1週間後、秋が瀬の大会で試す機会があり、良い感触を得る事ができた。その後修正を行いアメリカへと旅立った。

私もCoreも初めての海外、一番心配なのが長い飛行時間。ギリギリの時間まで排泄はしたが、やはり心配だ、さらに水も飲めない状態にいる。なんとか無事に着いてくれと願っていた。飛行機の離着時にCoreの泣き声が聞こえたので、元気なんだと、ほっとした。着いたらすぐスूपを飲ませ排泄させた、Coreも他の子達も元気そうであった。ロスの天気は快晴で、気温はあるが乾燥していて、犬には日本の夏より過ごしやすい環境だった。

次の日Coreの状態を見る為、軽くプレーしたがやはり環境の変化で疲れがあるようで、いつも通りとはいかなかった。私も雰囲気にも飲まれ、本調子が出なかった。Coreは大会までに調子は戻っていたが、私の気持ちの整理がこの期に及んでまだついていなかった。ただひたすらディスクを投げ続けた。投げ終わる頃には勝手に決心がついていた。そして大会当日を迎えた。アメリカのプレーヤー達は皆、陽気で本当にプレーを楽しんでいる感じを受けた。そして何より驚いたのが、スナップが強くディスクを投げるのが本当に上手い。だが、ここで日本のプレーヤーがこの人達に負けるとは思わなかった。単発で難易度の高いプレーはしていたが、コンビネーションでは日本のプレーヤーの方が上手いと思った。そんな事を思っていたら、もう私とCoreの出番になってしまった。緊張するかと思ったが、まったく緊張しなかった。Coreもいつもの調子で早く遊ぶよのかわいい顔を私に見せる。私にできる事はただ一つ、Coreといたいたいとなり自分達を最大限に表現する事。プレーは気持ちよく自分達を表現できたが、結果は思っていたより上がってこなかった。ディスタンスでは私のスローイングミスがあり、思ったより伸びなかった。準決勝、結果は、14位と悔しかったが、この大会で得たものは大きく、私とCoreをさらに飛躍させてくれるものだった。この大会を糧にし、今よりもっとスタイリッシュなプレーを目指し、また世界一に挑戦していきます。



尻、一生の思い出を ありがとう。

土屋正仁&尻（なぎ）

「夢の世界大会出場！」ついに出発の日、2月19日。

17時10分、日本を発つ飛行機にもかかわらず、午前10時に成田空港に到着。第2ターミナルの1階、芝の上で見送りに来てくれた友人3人と、尻と私とで話していた。私にとっては、何もかも初めての経験だったので、大変心強く思った。その後、皆で昼食をとり、検疫所で15分程度の健康チェックを受け、日本チームのメンバーと合流した後いよいよ出発。これから約10時間のフライト、尻のことが心配で「頑張ってるね」と声を掛けた自分の方が緊張していた。（尻は思っていたより平静なのに…）空港係員に連れて行かれる時も、表情一つ変えずにいた尻。機内でも「尻大丈夫かな。排便排尿我慢しなくていいからね。」とずっと思っていて寝付けなかった。（私が心配しすぎなのだろうか？） そんな事を考えているうちに、ロサンゼルス空港へ到着。早く尻に会いたいのになかなか会えない。会えたのは飛行機を降りて30分くらい経ってからだろうか。尻は元気そうで安心したが、また空港を出るのに30分ぐらいかかり、やっと空港の外へ、排便排尿にすぐ連れて行った。「尻、我慢していたんだ、ごめんね。」そして送迎バスに乗り込み宿泊先のホテルに着いてすぐ、尻に朝食をあげて一段落。私も日本チーム数名と昼食をとった後、時差調整のためその日は終日寝て過ごした。

翌日は、DISCの工場見学。見たこともないDISCが沢山あり思わず興奮！その後、いよいよ大会会場へ行くと、出場者と思われる人々が練習をしていた。日本チームも軽い調整。私は明日尻と調整する予定だったが、ついスローの練習を1人で1時間ほど行った。

大会前日。「いよいよ明日だ！」私は尻と軽い調整をと思ったが、北海道の夏ぐらいの気温で尻には辛いだろうと思いつつ、「これが世界大会が開催される会場なんだ。」と、嬉しさのあまりちょっと長い時間練習をしてしまった。

尻も暑さを思わせないくらい調子がいいようだ。「よし尻は大丈夫だ！」後は自分が尻のとりやすいトス&スローを投げられれば…よし投げ練習だ。ホテルに戻り本番に向け尻をゆっくり休ませた。（尻は仰向けになり熟睡！）対照的に私は興奮のあまり寝付けずに、思わず日本で待ってる妻に連絡をしたら「いつも通りに尻が楽しくDISC出来るように」と言われた。「そうだよな一尻は出来るんだ！…」と思いつつベットに横たわった。3時間くらいは寝たのだろうか？

いよいよ、大会当日。早めに大会会場へ到着し辺りを見回すと、続々と出場選手が会場入りしてきた。予想通り大型犬ばかりで小型犬（コーギー）は何処にもいない。地元の方にも聞いてみただけ「コーギーはほとんどいませんよ。いたとしても家庭犬でDISCはしません。だって足が短いからできないよ。」などと言われた。この言葉を聞き「よし！コーギーでもここまで出来るっていうのを見せ付けてやろう」と更に強く思った。会場裏で尻と軽い調整。今日も絶好調！これは行けるぞ！「頑張ろうね尻。DISC綺麗に投げるからね」と尻に言い聞かせた。

開会式が始まり、何を言ってるのか分からないまま皆に合わせて拍手してた私だったが、アメリカと日本の国歌が流れ徐々に緊張感が増えてきた。この時、自分の中で昨年の出来事を次々と思い出していた。「昨年、私はDISCの練習に夢中になりすぎて尻の体も考えず、毎日長い練習した結果左肩を疲労骨折させてしまった。手術をし、約1年間大会にも出れずグズで固定し3本足で歩いてた事…又、もう1頭の愛犬Jupiterと公園で遊んでいた時、お互い夢中に遊

びすぎ衝突して、その衝撃により唾液腺が破裂し眼球がみるみるうちに飛び出てきた事」そう思い出すと、この世界大会に出場する事が信じられず感無量だった。

開会式も終わり1組目のプレーヤーがスタートした。私は60チーム中39番目スタートで、日本チームの中では出番が一番最後。「まだまだ出番は来ないな」と思っていたら予想以上に早くて感じたのは私だけだろうか？日本チームも皆次々とナイスプレー！だんだん緊張感が増えてきて自分自身に「落ち着け！落ち着け！平常心！」と心で思うほど緊張してくる。ふと振り返り尻の様子を伺うといつも通りバリケンにて居眠りしている。「そうだよな、尻は自分とDISCするのを楽しみにしてるんだ。自分が緊張してどうするんだ。」出番まであと8組、尻を排尿に連れていき日陰にて出番が来るのを待っている時、気付いたら私もまず1R通過することを考えていた。この小さい尻が大きな自分に力を与えてくれているんだ。頑張らなきゃ！

そして遂にアナウンスが流れた。「MASAHITO, TSUCHIYA & ネギ。」「えっ！ネギじゃなくてなぎだよー」と思いつつ夢にまで見た世界大会のフィールド中央に今尻と2人で立っている。でもこの時は緊張感などはなかった。「今まで練習してきた事をだすだけ。」MCより「ready！」の声、自分は手を挙げてOKサインを出すとMCがなぜかハハと笑っていた。「コーギーだからかな？」と考えていたら日本チームから「尻頑張れよ」と沢山声援をもらい、すごく心強く、そして嬉しかった。「よし！」いよいよ曲が流れ1投、2投、3投「いいぞ尻」いつもの調子で連続キャッチしてくれた。中盤リングからのボルトで自分のトスが乱れ、1投ミスしたがボルトはその1投のミスのみ。尻に助けられた。そして終盤2投程ミスし、いよいよフィニッシュ。結果3投ミスでプレーを終了。「上出来だ。これはひょっとしたら2Rいけるかな？後は結果待ちだ」と思うと同時に場内から大きな歓声が…嬉しかった。「世界大会でこんなに歓声受けられるなんて！」テントに戻ったら日本チームの方にも「ナイスプレー！」と言われ、さらに嬉しかった。

結果が発表されるまで、凄く長く感じたが数分後掲示板を見に行くと32Pと表示。「まずい、ぎりぎりかなー」そして、すべての選手のプレーが終了しスタッフの方が得点の高い順番から掲示板の得点票を抜いていく。「まだ抜かれない、だめかな？」と思った時、尻と自分の得点票を手にとった。「やったー！20位以内に入った。まずは1R通過だ」よし！喜んでる暇はない。尻を少し休ませ自分はディスタンスの練習に向かった。「今日はますますだ！しかし順番は7番目」このポイントによっては決勝に残れるか残れないかの勝負だ！7～8Pは欲しい！そしてフリーフライトにつなぎたい。

あっという間に順番が回ってきた。2投練習出来るが自分は尻を信じて1投の練習にしてフィールドの真ん中ぐらいいに投げキャッチさせた。なぜか尻が走っているだけで周りからは大きな歓声が沸いてくる。

本番が始まり「GO！」の合図でまず1投目はキャッチ、続いて2投目もキャッチしたが短すぎてOP、3投目は自分のミスでノーキャッチ、4投目はかかろうじてキャッチトータル3P。この時点で決勝進出はかなり難しくなったが諦めてはいない。他の選手は着々とディスタンスでポイントを上げてきたが得意のフリーフライトでの挽回に燃えた。

フリーフライトの順番は2番目で考える暇もなく、すぐ出番だったが「とにかく悔いが残らないよう思いっきりいつものプレーをしよう」と尻と誓った。曲が流れ、疲れているはずなのに尻の動きが1R目より良く、順調にキャッチを重ね、得意のボルトもノーミス「いいぞ尻！」そしてフィニッシュ結果2投ミスで終了「もしかしたら決勝行けるかも？後は結果待ちだ。今、尻と私が持っている力をすべて出した。何とか決勝に残りたい。」しかし残念ながら名前は

呼ばれなかった。「悔しい」でも悔いは無かった。今持っている力をすべて出し切って、決勝に残らなかった自分の力不足なんだと実感した。

日本チームからは4名が決勝に進出した。早川&BEATチーム・高坂&Mousseチーム・林&愛鈴チーム・安田&ハーツチームの4チーム「さすがだなー。おめでとうございます」と思う気持ちと「明日の決勝頑張ってください」という気持ちでいっぱいだった。皆何とか表彰台へ上がって欲しいと願った。

決勝当日、凧と私はビデオカメラを片手に日本チームを応援しながら、いつかこの決勝のフィールドに立つことが出来るようにと勉強の為にビデオカメラを回し続けた。さすがに決勝に残った12チームは素晴らしいプレーを見せていた。その中でも日本チームの早川さん・高坂さん・林さん・安田さんのプレーは素晴らしく、思わず感激してしまいました。

そして大会も無事終了。結果凧と自分は17位。大会会場で皆と記念撮影をし、その後高坂さんと愛犬Mousseちゃんと凧と私はTV局の方にサンタモニカビーチとハリウッドを観光させてもらい、サンタモニカビーチでは散歩、ハリウッドでは、山を背に路肩の芝の上でDISCを楽しんだ。(こんな場所でDISCをする事なんて、一生無いんだろうなー、と思いながらもちょっと恥ずかしい。)

今思えばあっという間のロサンゼルス滞在だったが、あとは検疫所での2週間。これがまた、凧にとっても辛いと思う。家は自己管理を選択し成田空港で妻と待ち合わせて、私はここで凧としばらくお別れ。「本当は一緒に帰りたい。この気持ちは皆同じだよなー」と思いつつ、私は一足早く北海道へ帰宅した。検疫生活は妻にお願

いしたのでさほど心配はなかったが、何回か連絡し、凧の様子を聞いたが元気そうだったので安心した。そして妻には友人が何度か面会に来て頂いたようで、その節は皆さん有難うございました。

最後に、この度の世界大会出場のを与えて頂いたJAF及びスタッフの皆様には大変感謝しております。また、日本チームの皆さんお疲れ様でした。そして大変お世話になり有難うございました。今度、どこかの大会会場にてお会い出来る日を楽しみにしています。今回の世界大会への参加は、応援してくれた良き仲間の協力があったからだと思います。本当に有難うございました。そして何よりも誰よりも、凧お疲れ様！ありがとう。



小川 憲次&DAN

■2月19日(水)

どこまでも抜けるような青い空！飛行機の車輪がロサンゼルス空港の滑盤路に触れた瞬間ホッとした安堵感と、ダンの様子を一刻も早く確認できればとの不安な気持ち、とにかくゲージから出して外の空気に触れさせてあげたい… 喉の渇きとゲージ内の汚れも気になる。初めての休憩無しの長旅…成田空港で積み込んでから既に10時間は経過しているはずだ… 日付変更線で腕時計は直してしまった。

飛行機から降りても、入国手続きの列はなかなか短くならない、ヤキモキしてもしようがないのは解っていても、入国審査官の作業が緩慢に移る「もう少しテキパキ処理をして欲しい。」と思ってしまふ。

荷物の検査は無かった… 手続きが終わるとゲージを積んだ台車を押しながら先を急ぐ… とにかくゲージから出して確認したい。到着ロビーを抜けると屋外へ出た、狭いけど芝の植え込みが有った！ゲージを開けるとダンが元気に飛び出てきた。

切れてしまうんじゃないかと思うほど尻尾を振りながら、近くの道路を行き交う車に気付かないくらい喜んでる。元気でよかったぁ〜、それにゲージの汚れも無い!! 急いで水と食事を与えたら、アツと言うまに食べてくれた。……体調も悪くない。

車で宿舎のホテルへ向かう、車窓からは広々とした芝のエリアが所々点在する… たぶん公園だろう… 雨もほとんど降らないと話してくれた、いくらでも練習できる、羨ましい!!

ホテルへ到着すると他の日本チームは既に到着していた。私達の飛行機は1時間遅れていたのだ。ロサンゼルスは暖かった… 予想以上の暖かさ!! 真冬の日本からいきなりの初夏、湿度も低くサッパリしている。ホテルの部屋はツインだった、ダンをゲ

ージから出した、一人と一匹には広々としている。あわただしさと環境の変化に戸惑って不安なのか傍から離れようとし無い。

■2月21日(金)

練習を兼ね会場へ… 何組かのプレーヤーが練習している、しっかり根付いた西洋芝、リードを外すと気持ちよさそうに走りだした、こんな所で練習出来れば直ぐに上達できるのではと考えてしまう、練習では走る事に問題は無し。

■2月22日(土)

フリーフライトには55組のエントリーがあり自分は21番目… 日本からの参加者では最初にプレーするようだが気負いは無かった。

テレビで見た事の有名なプレーヤー達を見かける。

前夜のピザ・パーティーで知り合った人達の姿も… たまたま知り合ったアメリカのプレーヤーが練習は自宅の裏庭でしていると聞いて、羨ましく思う。

20番目のプレーヤーが競技を開始した、次だ… ウェイティング・エリアで待機する、ワクワクしながら、いよいよなんだなあって思う。ダンにトスして時間を潰す。

前のチームのプレーが終わったようだ、犬とコートから出てきた。入れ替わりは、なんとなく慌たしい…アナウンスのマイクを取る音がした、いよいよだ、しっかり名前を呼んで欲しい。

日本人名は発音しにくいらしい… 名前をコールされた、しかも正確に!! コートに入っていく、入口で使用するディスクを手渡された、コート中央に歩いていく、芝が気持ちいい・天気も良い!! ただそれだけで嬉しくなってしまう。MCは日本からどうのこうのと紹介してくれてるが難しくて聞き取れない… コート中央で開始位置を決める… 合図を送ったらBGMが始まった。プレーを始める…ルーチンを消化するだけだ… 順調だ!! でも… 途中でキャッチミスが出てしまった、大事なところなのに! 自分のトスの失

敗だった、緊張していたのかなあ？

多くのアメリカ人プレーヤーはフリーを楽しんでいる印象を受けた、国民性の違いが有るのかも知れないが見ていて楽しかった、見習いたいものだ。

また、米国ではオーストラリア・シェパードの活躍が目を引いた。驚異的と思える跳躍力ばかりでなく、まるで犬の方が間合いを取っているように力を抜く場所をわかまえているような錯覚を覚えてしまう程… フリーフライトの為に生まれてきたのではとの印象を受けてしまった、訓練の賜物なのか？ 優勝したボブ・エバンス氏と愛犬ニック… ニックもオーシーとの事。

彼らのプレーはコートを十分に使って生き生きさに加えボルト等の位置の正確さとタイミングも見事で、またジャンプしていると言うより空を飛んでいるのではと感じてしまう程、ニックの跳躍にも圧倒された。

初めての遠征…アシュレイ大会は楽しい思い出と貴重な体験、それに多くの収穫を持ち帰った。



ロスへの新婚旅行

真鍋宏行&キョウシロウ

出発の朝、五時半に家を出て高松空港へ向かう。キョウシロウ(以下キョウ)にとっては2回目の飛行機である。キョウは北海道中標津産まれのオーストラリアン・キャトルドッグ(ACD) 丁度3年前の春に飛行機を乗り継いでやって来た。僕にとって初めての犬である。そんなキョウとアメリカへ行くことが出来てうれしい。(密かに狙っていた?) 家を出てから約20時間後無事LAXに着く。キョウは元気なようだ。ケージの中に居るハーツに喧嘩を売ろうとしていた。日頃から鍛えてある(笑)ので飛行機ぐらいでは酔わないようだ。

翌朝ホテルの隅に有る狭い芝生でトレーニングしていると急にやら道の向こう側で3、4人が叫んでいる。何だろう? 中の1人が両手を広げ回っている。「そうか! バックボルトをやって見せてくれと言っているのか。」両手を広げキョウと一緒に左へ回りそのままバックボルト、声を上げ喜んでくれる。調子に乗って別のバージョンのボルト、これも喜んでくれた。僕も両手を振って応える。(得意気)「いける、うけはいいぞ。」と思ったのだが…

翌日の午後から皆で会場となる場所へ行きトレーニングをする。ここでJ.Dという面白い人に出会う。誰も頼んでいないのに、4頭のイヌを同時に操りいろんな事をやって見せてくれる。見ていると楽しい。J.Dもとても楽しそうにやっている。キョウは暑さ(26.5℃あった)の為かヤル気なし。地面の匂いを嗅いだり、ディスクもちやんとキャッチしない。叱りつけると返事はするのだが集中力が続かない。大好きなボールで軽く遊んでやる。後はキョウシロウ次第だ。

予選当日、気になる犬を発見。体形はACDなのだが顔意外が白く黒い斑点が全身にあるのだ。通り過ぎるのを見つめていたら、連れていた中年風の男性が熱い視線に気づき目があってしまった。

僕の順番は34、いつもの様に抱っこし、「キャチだぞ、信じてるからな、がんばれ」と小声で話し掛けコート中央へ。声援を送ってくれる皆に手を振る。キョウは僕の顔を見つめていた。まずは関西方面の皆様にはお馴染みのプリルーティンから。右ロール、ところが何を思ったか左へ転がった。(怒)曲に合わせる都合があるので慌てて左ロールの合図。左同時にサークル、右ロール、右同時サークル、ここでいつもと違う事に気づいて動きが止まる。僕だけが回

って1投目、2投目と進む。スタンドマルチが上手いかない。そのままジャグジー、続かない、キョウの上を前転して飛び越えバックボルト(ローリングバックボルトと言っている)もミス。そして例のバックボルト「あっ、トスミス!」連続でスローを入れるがミスしたディスクを必死で拾おうとしている。「ケアフル!」と2回叫ぶが聞こえていない。

「バカ犬がぁ」と思いながら走って自分で投げたディスクを取りに行く。キョウがディスクをほったらかし「お父さんどこ行くの?」とばかりに駆け寄る。頭にきていたのでいけないと分かっているが、無視してコート中央へ戻る。フィニッシュは決まっていたけどベストな状態を見せることが出来なかった。ZONEのK氏に声をかけられるが返す言葉が出なかった。MCのエルドンが「Very Nice」と言ってくれたのが救いだった。

翌日の決勝戦は盛りあがった。ディスクをキャッチする度に拍手と声援が聞こえプレーヤーもノッていた。応援するのも楽しかった。この決勝戦でチャックミドルトンの秘密がばれてしまった。(笑)そしてJ.Dのプリルーティンは笑えた。J.DとGalaxyがポーズを決めてじっとしているだけなのに何だか笑ってしまう。誰かが「J.D Start!」と叫ぶと動き出した。でも残念な事にGalaxyは最後まで動きが続き、結果は12位だった。J.Dの様なプレーヤーに成りたいと思いサインをもらいに行くのと前転をして「やってみる」と言っているようだった。ぼくが考えたローリングバックボルトを真似してくれると思うとうれしかった。僕とJ.Dはドコが似ているのかもしれない。昨日目線が合ったおじさんはわざわざ会いに来てくれた。ACDが好きでNashはACDとボーダーのミックスなのだそう。



(動きが速いと思った)「来年も会える事を期待している」と言ってくれた。

また来たい、また会いたい。

日本へ帰る日、飛行機に乗せる前に犬たちをケージから出してやる。キョウがCoreに近づくがあっさり嫌われてしまう。Beatを遊びに誘うがすぐに逃げられた。横目で僕を見ながら悲しそうな声で

鳴いた。それを見て大笑いしてしまった。おまえのお嫁さんはオトーさんが見つけてやる。(犬の事より自分の事は?というツッコミはやめましょう) こうして僕とキョウシロウとの新婚旅行は幕を閉じた。

[love ACD (ある組織では「キャトルバカ」と言うらしい)]

[love Kyoushirou]

"LA"

三本欽麗&カイザー・ソゼ

LA… 良い経験、勉強になりました。自分の愛犬(カイザー)と海外に行けるなんて。しかも、あの伝統あるASHLEY WHIPPET WORLD CHAMPIONSHIPに参加するなんて、夢にも思いませんでした。最初は、この大会の話聞いた時は迷いました。10~12時間も飛行機に乗って本当に大丈夫なのか心配でした。でも、こんなチャンスは二度と無いと思い、行くことにしました。

LAではペットショップへ行ったり、サンタモニカビーチ、スグー!! 大きいジョッピングモール、CDショップ、スポーツショップ、変な鉄板焼き屋、ドライブなどもしました。1番面白かったのはDISCOVERING THE WORLD《WHAM-O》でした。社会科見学みたいに色々なフリスビー見学やフリスビーを作る工程を見学、そして作らせてくれました。凄いなアナログな機械や作り方にビックリしました。《本物のフリスビー職人も居ました》

大会会場は、とても綺麗で、あまりの芝の良さに犬が足をとられ、走ったり、飛だりするのが困難でしたが2日間程、会場で練習することが出来たので大会は大丈夫でした。それにしてもアメリカのフ

リーフライトは、色々な意味で凄かったです。本当に勉強になりました。

今年、あの凄いなフリーフライトを日本で見れることを楽しみにしています。



2003年アシュレイウイペットインビティショナル 世界選手権 参戦記

小寺 賢& LEE

早いものでLEEと生活を共にして約4年。日本全国をこいつと飛び回ったがまさかアメリカまで行くことになるうとは夢にも思わなかった。当初は渡米をためらっていたが、練習仲間と一緒にに行けることになり、俄然、VIVA USA モードが全開へ! 面倒な手続きは協会に代行していただき、パスポートや各種ワクチン証明書のチェックを中心に準備を進める。事前に渡米経験者から事情も聞いており、特に不安無く当日を迎えた。LEEは飛行機の旅は2度目。自分では4回目の渡米となる。但し今回は片道約10時間の長旅で、少しかわいそうな気がした。



写真は搭乗前の不安そうなLEE

時期的に仕事の繁忙期なため、かなり疲れたはずなのだが、不思議に気持が高ぶり機内でもハイテンション。ディスタンス組は大会でのルーチンの心配などもなく、米国内での課外活動の計画で盛り上がる。心配されたテロやイラク戦争の影響も当時はなく、

無事にLAXに到着、協会が用意してくれた豪華遠征バスで期間中の拠点ホテルへ。RED ROOF IN (ホテル名) というだけあってさすがに屋根が赤い。(笑) ワンコ達もホテルで各々くつろいで、リラクセスし始める。さすがにみな順応性が高い子達だなと感心した。

ディスタンス組は、早速ワンコ達のリラクゼーションを兼ねて? サンタモニカへ移動。暖かい風に吹かれた解放感を十分満喫したようだ。



ホテルの駐車場でくつろぐLEEさん



サンタモニカ海岸で

2月20日 本年度から一部JFAの大会サポートをしているDISCOVERING THE WORLD社を見学させてもらう。店内にはところ狭しとマニア垂涎のフリスビー、ディスクゴルフ用DISKがワンサカ。特別サービスで今大会オフィシャルDISKの特別バージョンを各自に体験プリントさせてもらった。その他11人でかなりの量を輸入してきた模様。その後いよいよコンペ会場となるLAMIRADA公園にて練習開始。天候がいいせいか、芝の目が細かく、若干深い。緑いっぱい素晴らしい会場でワンコ達も感触を楽し

んでいるかのように走り回る。その後ホテルへ帰った頃には全米から参加者が集まってきていた 陽気なアメリカ人達と犬談義で盛り上がった後は、どんな犬達かな？とさりげなくチェックも。

2月21日 いよいよ本格的に練習開始。朝からみな熱心にスローチェック。この日には他の参加者（アメリカ各代表選手たち）も真剣な表情で練習していた。最年長のエバンス氏が一番練習していたのではないだろうか…。

その後受付にて参加者用Tシャツ、DISK、世界選手権出場認定証をいただき、夜はピザパーティーでディスク交換会と 大いに盛り上がった。

2月22日 いよいよディスタンスとOPEN競技に分かれて予選開始。ディスタンスは20チームが2回戦へ進出。更に12チームが決勝に残れる。昨日からLEEは好調で張り切って走っている。長時間フライトの後遺症はないようだ。出国前の大会では弾きまくっていたのでテンションが高いのは恐いのだが、'萎縮するよりはましだろう'との考えでそのまま1Rへ。コートはいつものJFA公式コートとは異なり、ユースオープンのようなスクエアなもので日本人には簡単。但しときおりの強めの風がプレーヤーを悩ませていたようだ。さてゲーム内容であるが、律儀に真中へ投げ込んだDISKが真っ直ぐに伸びて行く。案の上LEEさんはお弾き。このところロングに出したスローはほとんどキャッチできないので、気を付けていたのだが……。この後はミドルにロングを少し交えたものの無難に4投キャッチで1Rは2位通過。やれやれ

当初のプログラムから変更があり、2Rを初日に行われることになる。これには少し驚いたが、バタバタとコートサイドで待機。スローイングエリアは選択権が選手にあるため、少し迷ったが、微風であったため、キャッチ率のいい向かい風を選択。これが裏目に出た。レディーゴーと同時に強めの風が変わり、DISKが失速。LEEも戸惑ったか、3投しか捕れず、不本意な結果に。結果的には2位キープであったがTOPに大きく離されてしまう。まあ、来日前の不調状態から考えれば結果オーライであとはOPENクラス（フリー）の応援にまわる。この模様はOPEN参加者の



プレー後一番ホッとしていた上田氏と

レポートを参照いただき、是非次回参加のプレーヤーは参考にしてほしい。とても楽しく、ハイレベルであった。感動！

2月23日 決勝当日 プログラムが決勝用に用意されている。12チーム残ったファイナリスト達は 12位からプレー開始となる。全体的に風等のコンディションがいい割にみなスコアが伸びてこない。TOPまで少しポイント差があるが 思い切って逆転を狙ってロングに投げ込む。…2投目、3投目と連続でお弾き。4投目は何とかキャッチしたがロングゾーンでのミスが痛く、タイムアップ。順位も2位から5位へ転落。毎度慣れてはいるが、やはり悔しさは残る。ゲーム後、米国人プレーヤー数名が あんなこともあるさと、なぐさめにきてくれた。（アナタたちもうひょられた経験あり？）優勝は女性で 長いリーチを生かした無難なプレーぶりが印象的。同じホテルに滞在している人で 好感の持てるプレーヤーである。ワンチャンも基本的な動きがキチンと入った素晴らしいメスのボーダーコリー。一緒に出場した三本氏が準優勝で日本代表として頑張ってくれた。表彰式はスタッフも含めてお互いの健闘をたたえあい、大成功にうちに幕を閉じた。但しワンコ達にはこのあと検疫という厄介な仕事が続いている。

最後に選手権中、検疫中ともに三本氏の奥様には非常にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また素晴らしい機会を与えてくれたJFA、DISCOVERING THE WORLDをはじめ関係各社に感謝します。この伝統あるイベントが継続しますように、また後に続く日本人の活躍を祈っております。



世界へ翔いた選手・ワン子達



念願のフリスビードッグ世界選手権が開催。現実のものとなった。昨年のジャパンファイナル2002にゲストとして来日していた、マーク・モルナー氏。エルドン・マッキンタイア氏の口から、伝統のフリスビードッグ世界選手権に日本代表選手を招待する話だった。ようやく見えない壁が崩れ落ち、選手達の夢となる舞台が用意された。フリーフライト部門とディスタンス部門の世界一が決定す

る…。2月の開催とあって、予選会の準備をすぐ整え昨年12月より予選会を実施し、今年の1月26日（播磨大会）が最終選考となった。

世界のキップを手にした選手を紹介しましょう。

初の世界選手権ディスタンス部門に、2000年、2001年の年間シリーズチャンピオン三本欽麗&カイザー・ソセチーム。12月の予

選会にて優勝した小寺賢&LEEチーム。(2001年ランキング4位と2002年ランキング12位の実績を持つ)の2チームがノミネート。歴史ある世界選手権フリーフライト部門にジャパンファイナル2002フリーフライトチャンピオンシップからは優勝高坂健一&Mousseチーム。準優勝林康男&愛鈴チーム。第3位安田信二&ハーツチームの3チーム。2002年、年間フリーフライトポイント最高獲得チームの早川利幸&BEATチーム。12月の予選会にて優勝した小川憲次&DANチーム。1月の開幕戦(千葉野田)で優勝した村上行弘&Kellyチームと土屋正仁&凧チーム。最終選考で勝ち取った真鍋宏行&キョウシロウチームと多々良憲司&Coreチームの9チームがノミネートを受け、2月19日成田を後にした。

3便に分かれてのフライトの為LAX到着ロビーにての待ち合わせでしたが、林さん、小川さんの便が遅れてしまい、ホテル集合という事でエルドン氏に出迎えをお願いし、我々は一足先に大型チャーターバスにてホテルへと向った。(検疫にてフードを没収されてしまい、早くフードを買いに急がねば…)ワン子達はみんな元気でホッとしました。ホテルへ着き、買い物へ…愛用のフードはあったのでしょうか…。

私はすぐにレンタカーをピックアップし明日からの準備を行う。夕刻には林・小川氏とも合流でき夕食へ。長旅の疲れの様子もなく、楽しい晚餐でした。翌20日(木)はディスカバリング・ザ・ワールド社へ工場見学と昼食会。その後会場の下見。夜には獣医による検診とスケジュールは続く!!

ディスカバ社は珍しい(レア物)フリスビーが沢山あり、コレクターの人はヨダレ物だった事でしょう。実際にフリスビーのプリント作業を体験し、Ashly Frisbee JFAカラーバージョンとして一枚づつ記念として持ち帰った。昼食はディスカバ社ダン・マンゴン氏と共に取り、談笑する。

ホテルへ戻りワン子を載せ会場へと向う。少し傾斜もあるが広い。緑の芝が目にも痛い程、輝いている感じだった。選手は芝が深く、犬に取っては走りにくいと声がかかった。数分後、各々ウォーミング・アップから実戦モードへと練習が続いた。しかし、気温が高く 熱い。

でも、この条件の中で戦わなければいけないのである。

ホテルへ戻り、一時の休養を取り、19:00分頃から獣医による検診が始まった。11頭を終えるのに2時間もかかってしまう。持参した書類には不備はなかったはずなのに、一点だけ問題が発生。狂犬病予防証明証に薬の番号が記載されていないから、書類が書けないと獣医は嘆いていた。この書類をUSDAに持参しても許可が出るかどうかは責任が持てないと言う。(マークは全く問題はないと言

っていましたが…)

ワン子11頭“異常なし”で終了し、とりあえず安心した。

翌日エルドンがUSDAへ代行手続きを無事に済ませてくれるのを祈るだけだ。遅い夕食を取り、長い一日が終わる。

21日(金)、大会前日の練習日として、午前の部・午後の部に分かれて会場入り。選手も様々で午前は犬との練習。午後からは人間のみの練習。午前・午後共に犬との練習をする選手。明日への調整は皆、真剣だった。

夕食はピザ屋でピザパーティー。飲んで食べてが始まったが…何と、フリスビー交換会、サイン会へと!! 選手達は楽しい時間を過ごし顔が緩んでいましたよ。財布のヒモが緩んだ選手もいたのではないのでしょうか?

22日(土)世界選手権1日目。選手のモチベーションはどうなのだろうか。きっと眠れなかった人もいたんだろうな…?

会場に着いてから日本選手のテントブースを設け、開会式の時間を待つ。

緊張しているのかな?と選手の顔を伺うとそんな感じはなかった。

日本での大会慣れ、いくつもの大舞台を経験している腕は一級品の“兵揃い”緊張よりもいつもの笑顔で会場の雰囲気をも自分の物にしているようだ。フリーフライトコートとディスタンスコートの2面があり、予選1ラウンドが同時進行にてスタートした。ディスタンス部門にエントリーしている三本欽麗&カイザー・ソゼチームが12番目スタートだ。次いで小寺賢&LEEチームが16番目スタートになる。36チームのエントリー中、予選2ラウンドへ進めるのは20チーム。問題ないでしょうと、三本欽麗&カイザー・ソゼチームの戦況を見つめた。2投ミスの7.5ポイント。声を掛ける時間も無く、小寺賢&LEEチームのラウンドがスタートする。5投中、1投ミスで14.5ポイント。上々の出だしだ。小寺賢&LEEチームは2位通過で予選2ラウンドへ進出。三本欽麗&カイザー・ソゼチームは17位タイで進出した。三本選手は「次のラウンドが勝負。巻き返します!」と笑った目の奥にいつもの三本選手が映っていた。

小寺賢&LEEチームはこのままの調子で決勝まで行って欲しいと心の中で願う。

予選2ラウンドのスタート。三本欽麗&カイザー・ソゼチームは13.5ポイントを取り計21ポイントで5位まで浮上。小寺賢&LEEチームは少し伸びず10ポイントを取り、計24.5ポイントの2位タイで翌日のファイナルラウンドへ。日本人ワン・ツーフィニッシュを狙う。

フリーフライト部門では55チーム参加の中、予選1ラウンドを行い、予選2・3ラウンドへ進出出来るのはわずか20チーム。狭き門だ。21番スタートで小川憲次&DANチームが日本選手の中でトップバッターになった。順に27番〜高坂健一&Mousseチーム。31番〜多々良憲司&Coreチーム。32番〜早川利幸&BEATチーム。33番〜安田信二&ハーツチーム。34番〜真鍋宏行&キョウシロウチーム。と日本選手が続き37番〜林康男&愛鈴チーム。38番〜村上行弘&Kellyチーム。39番〜土屋正仁&凧チームが次のラウンドを目指す。

7チームが見事に予選1ラウンドを通過し20チームの枠に入った。19位タイが3チームいたために最終的には22チームにて行う事となった。

残念ながら小川憲次&DANチーム、真鍋宏行&キョウシロウチームは健闘虚しく予選に於いて29位・30位の成績でしたが、世界の



舞台で動する事も無く、伸び伸びと競技を行っていたのが印象的でした。翌日のファイナルラウンドへ進めるのはわずか12チーム。22チーム中、約1/3の7チームがJFA選手。予選2・3ラウンドの競技で決勝枠12を競うのだ。予選2ラウンドはディスタンスとなり、日本選手のポイントが今一つ伸びてこない…。上位選手との得点差が大きく広がってしまう。予選3ラウンド（フリー競技）で勝負するしかない状況の中、7チーム全選手が高得点を出す。最高のパフォーマンスであり、最高の出来であった。わずかな差で村上行弘&Kellyチーム、多々良憲司&Coreチーム・土屋正仁&風チームが翌日のファイナルラウンドへは進めませんでした。フリーフライト競技に於いて34.5ポイントを出した村上行弘&Kellyチームは13位タイと決勝枠まで1.5ポイント届かず。多々良憲司&Coreチームは4.5ポイント届かず15位タイ。大会初のウェルシュコーギー“風”を相棒に、小型犬のハンディなど感じさせない大きな演技を披露し、アメリカの選手にも大人気だった土屋正仁&風チームは18位タイ。3チーム共3ラウンドは満足の結果を残せたのでしょうか、晴々とした笑顔で私に語ってくれました。

1日目が終了しホテルへ戻り、選手は様々な思いを胸に愛犬と一緒に過ごした事でしょう。私は少し買い物をし、夕食を済ませベッドに横になり、いつの間にか眠ったようです。（応援疲れかな…笑）

23日（日）世界選手権2日目。決勝だ。いよいよ各部門のチャンピオンが決定する。昨日同様緊張している様子は感じ取れなかったが、順番が近づくにつれて少しづつテンションも上がり、心地よい状態になるのだろうか…。（私がジャッジをしている時は気分が高まりますね）

フリーフライト部門のファイナルラウンドはディスタンスからスタートする。昨日は日本選手のポイントが伸びず、苦戦しているので4選手には10ポイント以上を狙って欲しい。予選12位からのスタートとなり、日本選手は10位の安田信二&ハーツチームが最初となる。9.5ポイント。良しとしよう…。7位タイのスタートは林康男&愛鈴チームで6ポイントしか取れずに11位と後退してしまう…。4位スタートは高坂健一&Mousseチーム。Mousseの噛み癖が心配である。10.5ポイント…。平均ポイントなので最後のフリーで逆転だ（順位は5位）。3位スタートは早川利幸&BEATチーム。昨日のディスタンスポイントは10ポイントを取っており、日本選手ではトップであった。ジャパンファイナル2001グラッドチャンピオンの実績を持つこのチームに期待がかかる。結果はショートのパフォーマンスで11ポイントを取るが順位は1つ下げ4位となる。やはり緊張して手が縮んでしまい投げられなかった…と早川さんは話してくれた。各選手ディスタンスで順位を下げたが、全力で最終ラウンドに望んで欲しいと願うばかりだ。

ディスタンス部門のファイナルラウンドがいよいよ始まる。2位の小寺賢&LEEチーム、5位の三本欽麗&カイザー・ソゼチームが最後の1分間に挑戦する。1位通過のジェーン・ダイブン&MARIEチームは32.5ポイントで小寺賢&LEEチームとは8ポイント差。三本欽麗&カイザー・ソゼチームとは11.5ポイント差。ドラマが起きる事を願う全日本選手達。

三本選手は決勝でロング4本を成功させ17ポイント獲得。トータル38ポイントで後続選手の結果を待つ事となる。小寺選手は24.5ポイントをどこまで伸ばしてくるのか楽しみだ。2・3投目を弾いてしまい8ポイント上乗せ。トータル32.5ポイント。1位のジェーン・ダイブン&MARIEチームは無難にショートを5本決め、14ポイントを獲得。トータル46.5ポイントで逃げ切ったの優勝を飾る。これがフリスビードッグの難しい所であり、楽しさでもあり、醍醐味なのだ。

三本欽麗&カイザー・ソゼチームが世界2位の座を手に入れ5位入賞に小寺賢&LEEチームが入った。優勝は逃したものの両選手の力はアメリカの選手も絶賛し、惜しみない拍手を送っていた。

カイザー&LEEお疲れさまでした…。

間もなくフリーフライト部門のファイナルラウンド（フリー競技）が始まろうとしている。決勝へ進めなかった日本選手5名の分まで、ワン子達に分まで力を出し切って欲しい。

日本のテントは三本選手、小寺選手も加わり大声援。

我々のテントから“オーラ”が出ている様な感じで、日本選手団が一つになった瞬間だった。私は何よりも嬉しかった。これから決勝なのに既に胸がいっぱいだった。

ファイナルラウンドへ進出の4チームは思い残す事無く、プレーし日本のレベルを世界へ広めてくれた。又、アメリカの選手も全力でプレーし、本場の実力を見せ付けてくれた。見事ランダーカップを手にしたのはボブ・エバンス&ニック（決勝36.5）。準優勝はボン・サラデス&チョコ（決勝39.5）と過去のワールドチャンピオンの実績を持つ選手の1位、2位であった。

決勝で35.0ポイントを記録し早川利幸&BEATチームが世界の3位へ入る快挙を達成。最高の出来だった。

5位からの逆転優勝を狙った高坂健一&Mousseチームは35.5ポイントを記録するが4位入賞。11位からのジャンプアップ。決勝でのハイパフォーマンス。大技連発の林康男&愛鈴チームは36.5ポイントを記録し7位入賞。10位からのスタートの安田信二&ハーツチーム。安定した技とスピードある技で善戦しましたが、一歩及ばず33.0ポイントを記録し10位入賞。という結果を残し幕を閉じた。

実力差は無いに等しいまで昇りつめた実感した。日本の選手が頂点に立つのは近いと思うし、是非そうやって欲しい。アメリカのプレーを生で観戦しフィールドに立った選手達が一番感じている事だと私は思っています。

私は今回の渡米に同行し、初めてジャッジの立場から離れ、選手を応援する事が出来ました。全てが身になり、勉強させて頂きました。

世界へ翔いた選手達…私は誇りに思い、感謝しています。ありがとう。

そして世界の舞台で活躍したワン子達、長旅と検疫がんばったね。お疲れ様…。

統轄本部 上田 隆



OPEN DIVISION

2/22

2/23

PLAYER	CANINE	ROUND1					ROUND2		ROUND3					ROUND4		FINAL ROUND				FINAL TOTAL
		FRE	EST	YLE		TOTAL	CATCH	TOTAL	FRE	EST	YLE		TOTAL	CATCH	TOTAL	FRE	EST	YLE		
		D	S	L	E		FETCH		D	S	L	E		FETCH		D	S	L	E	
BOB EVANS	NICK	9	9	9.5	9.5	37	15.5	52.5	9.5	8.5	9.5	9	89	13	102	9.5	8	9.5	9.5	138.5
PON SARADETH	CHICO	9	8	9	8.5	34.5	7	41.5	9.5	9.5	9.5	9.5	79.5	13	92.5	10	9.5	10	10	132
TOSHIYUKI HAYAKAWA	BEAT	8.5	9	8.5	9	35	10	45	8.5	9	9	9.5	81	11	92	8.5	9.5	8.5	8.5	127
KENICHI TAKASAKA	MOUSSE	8.5	9.5	9.5	9	36.5	8.5	45	8.5	9	9.5	8.5	80.5	10.5	91	8	9.5	9	9	126.5
CHRIS GARDNER	SKY CODY	8.5	9	9	8.5	35	11.5	46.5	9	9.5	9	8.5	82.5	10.5	93	8.5	7	8.5	7	124
LAWRENCE FREDERICK	AERO DYNAMIC	8	8	8	8.5	32.5	12.5	45	9	9	8	8.5	79.5	9	88.5	8.5	8	8.5	8	121.5
YASOU HAYASHI	IRENE	7	8.5	9	9	33.5	8.5	42	8	9.5	9.5	9	78	6	84	8.5	9.5	9.5	9	120.5
CHUCK MIDDLETON	DONNIE	8	7	8.5	7.5	31	9.5	40.5	8	9	8.5	8.5	74.5	11.5	86	8.5	8.5	8	8.5	119.5
LAWRENCE FREDERICK	HAPPY GIRL	8.5	9	9	9	35.5	7	42.5	8.5	9.5	8	9	77.5	10.5	88	8.5	6.5	8	8.5	119.5
SHINJI YASUDA	HEARTS	7.5	9	9	9	34.5	8	42.5	8	8.5	8.5	8.5	76	9.5	85.5	8.5	8	8	8.5	118.5
TOM CLEMENTS	TAYLOR	8.5	8.5	9	9	35	4	39	9	9	8	9	74	8	82	9	8.5	7	8.5	115
J.D.PLATT	GALAXY	7.5	8	8	8.5	32	13.5	45.5	8	8	8.5	8	78	8.5	86.5	5.5	5	5.5	6.5	109
STEVE TEER	GUINNESS STOUT	8	9	8	9	34	7	41	7.5	8.5	7	8.5	72.5							
YUKIHIRO MURAKAMI	KELLY	8	8	8.5	9	33.5	5.5	39	8	8	9	8.5	72.5	13位タイ						
KENJI TATARA	CORE	8	8.5	8	9	33.5	7	40.5	8	7	7	7	69.5	15位タイ						
CHRISTI GOODMAN	RED ROCKET RIDER	7.5	8.5	7.5	7.5	31	10.5	41.5	7	7.5	7	6.5	69.5							
DAVID DEMENT	FLYIN' NASH	7.5	7	8	8.5	31	8	39	7	7	8	8	69							
MASAHITO TSUCHIYA	NAGI	7	9	7	9	32	3	35	8	9.5	7	9	68.5	18位タイ						
SUNG HYUN	TAG	7.5	8.5	7.5	8	31.5	2.5	34.5	8.5	9	8	8.5	68.5							
TRACY PRUDDEN	FLYING RED KILLIAN	8	7.5	8	9	32.5	9	41.5	7.5	7	5.5	6.5	68							
STEVE MALMLOV	FOSTER	8	7.5	7.5	8	31	9.5	40.5	7	6.5	6.5	7	67.5							
SONYA WOLF	BOO	7.5	8	8	8	31.5	6	37.5	7	8.5	7.5	7	67.5							
SONYA WOLF	COMETT	8	8	7.35	7	30.5														
ALAN THIBODO	JASPER	7	8	8	7.5	30.5														
GREG TRESAN	MOXIE	7	8.5	7.5	7.5	30.5														
MARK JENNINGS	SKYLAR	8	6.5	7.5	8	30														
MARIE EARLE	BO	8.5	7.5	6.5	7.5	30														
JOSEPH JONES	KYLIE	7.5	8	7	7.5	30														
KENJI OGAWA	DAN	健闘惜しくもRound1にて競技終了																		
HIROYUKI MANABE	KYOUSHIROU																			

CATCH AND FETCH - DISTANCE DIVISION

NAME	DOG	
YOSHITSUGU MITSUMOTO	KAISER HOSE	2 位
KEN KOTERA	LEE	5 位



競技開始前、世界へ挑むJFA選手とボブ・エバンス氏



LAX到着後、チャーターバスにてホテルへ移動



カリフォルニアの空とFly Way



ディスカバリング・ザ・ワールド社見学、
社長 ダン・マゴーン氏



フリスビープリント加工に挑戦



フリスビープリント加工の様子



公開練習日、木かげで休養をとる選手たち



アメリカスタッフとランチ



ピザパーティーにて



小川氏が発端… フリスビー交換会に。



フリスビー交換会



展示された各々のフリスビー



ワン子を車に載せ、いざ出陣



大会会場にて



エントリー受付



入賞カップ、中央がランダーカップ



エントリー選手、スコアボード



Ashly運営スタッフと本部関口



フリーフライト世界3位。世界の早川が誕生した。



左より早川さん、ボブ・エバンス氏、ボン・サラデス氏



フリーフライト部門、入賞した選手たち



勝利を讀え、ボブ・エバンス氏と



入賞したJFA選手達



ディスタンス世界2位の座を手に入れた三本選手

(写真提供 小寺 賢)

関西本部

関西本部では、月に一度の練習会を堺市&ワールド牧場にて開催しています。本部大会のステップアップとして参加宜しく願います。

又西ブロックでのフリスビードッグの普及活動ならびに大会誘致、各クラブのバックアップ指導等も行っています。

関西本部本部長 團野悦郎

千葉支部

千葉支部は2ヶ月の一度の割合で支部大会を開催しています。

できるだけJFA本部大会とは違ったアットホームな感じで初心のかたでも安心して参加できるような大会にするよう努めており千葉県を中心にフリスビードッグというスポーツの発展を目的とし、中級インストラクター2名、初級インストラクター2名、他スタッフ計10名で活動を展開しています。

またフリスビードッグを始めたばかりのかたのために、大会開催と同時に初心者教室、スローイング教室も行い、一人でも多くのフリスビードッグプレーヤーがふえてくれるように、千葉県内での底辺の拡大にも努めて活動しています。

今年はすでに東京支部合同でスローイング教室を行ったのをはじめとして関東近県の支部、クラブとも協力して交流したくさんのかたにフリスビードッグの楽しさを知ってもらうことを目的として活動し、また支部、クラブスタッフ同士の親睦、クラブの普及がはかれればと思っています。

千葉支部支部長 早川利幸

神奈川支部

フリスビードッグ神奈川支部は、神奈川県横浜須賀町を中心として、活動しています。

活動は、毎日地元の公園でメンバーを中心に朝と夜に練習、地元公園の清掃活動など、世界大会に参加したチームも在籍しています。

初心者から上級者までの全ての方が日々楽しく愛犬と一緒にフリスビーで遊べるようにと考えています。

神奈川支部支部長 高坂健一

福岡支部

JFA福岡支部では、愛犬とフリスビードッグスポーツを楽しむだけでなく、愛犬の躰や愛犬家のモラル及びマナーの向上にも取り組んでいます。また本会には、全国各地で開催されるJFA公式選手権やジャパンファイナルで活躍するチームも多く、ビギナーから上級者まで、各自の技術向上を目指すと共にフリスビードッグの普及と発展に取り組んでいます。

■入会金および年会費は『無料』

JFA福岡支部ではJFAの規約にのっとり、入会金や年会費はありません。本会は各地でのデモンストレーション出演や、JFA公式選手権での運営協力等で得た収入で、必要経費を捻出しています。ただし、インターネットを使用されない方には通信費として年間1,000円程度を頂く事もあります。

■練習会・イベント・レクリエーション

JFA福岡支部では、JFA公認インストラクターを中心に毎月一回、日曜日に定期練習会を開催し、会員達が練習の成果を発表し楽しく

競技しています。

また、初心者へのためのスローイング教室や、How to講座などを常時開催しています。さらに毎週日曜日には会員が自主的に集まって練習しています。

九州各地でのイベントにも、当支部のメンバーが出演し好評を博しています。

レクリエーションも多彩で、夏休みの川遊び・バーベキュー大会・キャンプ・他クラブとの交流会・クリスマス会（忘年会）などがあり、家族ぐるみで親睦を深めています。

■入会資格

JFA福岡支部は、フリスビードッグを愛し、そして支部会則にのっとって良好な人間関係を構築出来る方ならどなたでも入会出来ます。（JFA会員でなくとも入会できる）また、大型犬・ミニチュア犬・ミックス犬等、どのような犬種でもOKです。要は、会の中で自分の楽しみ方を見つけ、自分なりに取り組むことが大切です。

★ただし、他団体の運営に携わっている者の入会は出来ません。（類似クラブはこれにあたらない）

福岡支部支部長 松尾 興

クラブ札幌

永年住んでいても気が付かなかった北海道の良さを、全国各地への遠征で少しずつ分かってきた今日この頃。皆様、暑さ対策は万全でしょうか？

さて、道外の競技者にとってフェリー・飛行機遠征は非常に負担に感じていることでしょう。現に私も初遠征をするまでは「本州までなんて…」と思っていました。しか〜し北海道は、その負担以上に有り余る魅力があります！

ご家族連れ・ご夫婦・独身男女それぞれのニーズに合った観光地や施設が豊富！特に個人的には東京以北最大の歓楽街ススキノへは是非一度足を運んで頂きたい。私も遠征者の方々へのピッタリなアテンドが出来るよう、ススキノ情報を入手すべく夜な夜な散策を重ね、皆様のお越しを首を長くしてお待ちしております。旅のついでに夏でも涼しい札幌大会へも…。

札幌大会ススキノ前夜祭担当
兼 札幌札幌クラブ長 大沢弘和

クラブ青森

2002年10月に発足したクラブ青森です。

青森は雪が多いため11月から3月までは活動が出来ないという不利な条件ではありますが、春から秋にかけてはとっても活動的な県です。

まだ発足してまもないので人数も少ないですが皆さんのやる気がいみなぎりと空気あいあいとフリスビーを楽しんでいます。

今はフリスビーの普及と初心者講習に力を入れています。これからの目標は、大会に積極的に参加してみんなで応援あい、フリスビーをこよなく楽しむクラブ青森にしたいと思っています。

クラブ青森スタッフ一同やる気はみなぎっていますが、発足したばかりでわからないことも多々ありますが、精一杯頑張りますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

クラブ青森クラブ長 本田美樹

クラブ岩手

クラブ岩手設立より、今年の8月でちょうど2年となります。

当時、岩手にはフリスビードッグと言う言葉自体も、クラブ岩手と言う存在もあまり知れ渡ってなく、公園などで犬連れの方を見かけては紹介していた記憶があります。今では【HPを見てきた。】【紹介されて…】など、岩手でも確実にフリスビードッグを楽しむ飼い主の方が多くなったと思っております。

2年前と比べると、とても大きな進歩だと思います。しかし、ただ喜んでいられるばかりでもないのが現状です。現に岩手で、会場周辺の方の苦情により、保健所などに連絡されてしまい、練習会会場としての使用が出来なくなってしまった所があります。

犬が好きな人ばかりとは限りません。犬が側に寄っただけで「噛まれた～」と言う方だっています。これは本当に難しい問題なのだと思います。

クラブ岩手では、フン等の問題はないと思っています。それでも、フンの問題が無くならないのは、まだまだきちんと処理していない飼い主の方がいると言う事なのでしょう。此処までくると、本当に飼い主のモラルの問題になってきますが…。

犬が嫌いな人にとっては、そこに犬がいるだけで大騒ぎしてしまいう場合だってあります。そのようなことを踏まえた上で活動を行って行きたいと考えております。

岩手から本大会までは、決して近い距離とは言えませんが、今年はメンバー各々が進んで本大会に参加できるように、もっと、大会の楽しみを知ってもらうように活動したいと思っております。

岩手よりの参加の際は是非、声を掛けていただければ、メンバーも嬉しく思うと思います。

今後とも、クラブ岩手共々、よろしくおねがいいたします。

クラブ岩手クラブ長 及川亜沙子

クラブ仙台

クラブ仙台を設立して約1年半になります。

初めは3人からスタートしたクラブですが宮城県でも徐々にフリスビードッグ人口が増えて、クラブ岩手さんクラブ青森さんの協力を得ながらもクラブ大会まで開催できるようになってきました。また、クラブスタッフ及びメンバーの方達は犬と遊ぶのが本当に好きみたいで雰囲気の良いクラブになっています。練習会やクラブ大会を定期的に行っていく予定ですのでその時は遊びに来てください。

クラブ仙台クラブ長 庄子幸雄

クラブ茨城

クラブが発足して1年です。

クラブから「日本一を出す」、と言う目標で発足しました。

関東の中では比較の出遅れ気味の感がありましたが、最近やっとスタートラインに並べるようになった気がします。

専用の練習場（USコート常設）が有るのもこのクラブの最大の強みです。

その成果か？公式戦の優勝者も今シーズン初めて出てきました。

クラブ茨城は子供の層が厚く、将来有望、しかも、子供たちの活躍が著しいのが特徴です。

マスコットのキャラクターを持った子供達に恵まれたクラブといえるでしょう。

我々大人たちも、この子たちに負けじとばかりに頑張っております。

年の差を超えたライバル同士の集まりです。

この子たちが育てば近い将来目標の「日本一」が生まれる可能性の最も大きいクラブと言えます。

まだ主なクラブ行事は行っていませんが、公式審判員、インストラクターも増え、組織が固まって来ています。

「これから見ています！」と言ったところでしょうか？

クラブ茨城クラブ長 柏 正雄

クラブ愛知

クラブ愛知は昨年2002. 9月に発足したばかりのまだ駆出しのクラブですが「フリスビードッグを愛し、一緒に楽しみましょう」をスローガンに月一回の予定で豊橋の神野埠頭緑地で練習会を行っています。

愛知という土地柄か？なかなか、犬、フリスビードッグには理解が少ないのが悩みの種ですが、イベントへの参加、広報、普及活動など、地道に活動が続けていく事で、理解と信頼を頂ければと努力しております。

そして愛知県内各地で大会を開催できれば、それがフリスビードッグへの理解につながってくれると思っています。

まだ、まだ、未熟なスタッフばかりですが、些細なことでも気軽に聞き合えるような雰囲気のクラブにしていきたいと思っていますので、お近くの方は是非、練習会などご参加下さい、一緒に楽しく練習いたしましょう!!

クラブ愛知クラブ長 太田由紀

クラブ三重

こんにちは クラブ三重です。

平成14年1月に発足して、あっという間に現在に至り、クラブ員も徐々に増えて、初心者教室でのヘナチョコスローも今ではロングスローを競うまでに成長してきました。ゲームが思うように行かなかったときの悔しさも、緊張のあまり頭の中が真っ白になったゲーム・愛犬と一緒にだといつもスローが出来ないことも経験し、練習よりうまく行って逆にとまどったりして、でも結果、より深くフリスビードッグにかかわってきているようです。遠征の楽しさも芽生えてきたかな？

毎月行っている練習会も、ラインズマン・記録・ジャッジを自主的に交代で出来るまでに成長しているので向上心旺盛、これからが楽しみでもあります。

クラブ三重は、地域のファンシャーによって支えられています。毎月訪れる初心者の方々にゲームの奥深さと愛犬とのコミュニケーションの楽しさを知っていただければと思い毎月練習会も開催しています。

県内で毎年大会を行っていますが、各地と同様、会場の誘致については頭が痛いところ。時間が許す限り各地に出向いて現地を視察して担当の方と懇談していますが、まず一歩目です。自治体というのは責任をもって判断できる人材がいけない団体なので、話をするときには担当者の肩の荷を降ろすところから始まります。

話しの内容ですが、たとえば犬立入禁止・地面が不適切・狭い・時間が限られるなど理由は様々で適切な場所も見つからないのが現状。犬嫌い、または一部の方のマナーの悪さもあり犬に対する偏見もあるでしょうが、どこの地域においてもペットが増え続けている以上、自治体としても見て見ない振りすることも出来ないところに持っていく。環境課・教育委員会などを巻き込んで自治体が苦手と

する横の連絡網を形成することもできます。

愛犬とコミュニケーションすることで信頼もでき可愛くなるので、愛着がわけばウンチのポイ捨ても減ってくる。市民の一員としてお役に立ちたい…と持ってくる、そうすれば自治体もこちらを向いてくるでしょう。

甘い考えかもしれませんが、コンパニオンアニマルとして、社会の一員として加えられたらいいなと思います。

このような厳しい情勢の中で久居市の対応は素晴らしいのではないのでしょうか。会場のスペースの広さと大会に向けての芝の手入れ、給水用ポリタンクの貸し出しなども協力していただき感謝しておりますが、このような対応に甘んじることなく、クラブ三重は地域に貢献していきたいと思っています。

近隣のクラブの皆さんに支えられているクラブ三重、弱小ではございますが、これからもよろしくお願いいたします。

クラブ三重クラブ長 畑中松雄

クラブ和歌山

クラブ和歌山の本拠地は海南東ICを降りて15分ぐらいの所にある野上町動物愛護センター隣のふれあい公園で月1回（第3日曜日）に練習会を行っています。（和歌山大会もこの会場で行ってます）

まだまだ会員数が少なく初心者の方が多いのですが、少しでも早く大会に参加出来るように頑張っています。

各大会の会場で見かけた時には、どうぞよろしくお願いいたします。

クラブ和歌山クラブ長 淀川和馬

クラブ瀬戸内

クラブ瀬戸内は、岡山県を中心に岡山県、広島県、山口県と広範囲のエリアで活動しています。

範囲が広いせいもあり、クラブスタッフやメンバーの方々も数多く、大世帯のクラブですが、クラブ行事への参加も長距離移動の事が多く、ご不便をお掛けしているのも事実だと思います。

本年は5月までにクラブ講習会&練習会を2回、クラブ大会を1回開催いたしました。今後の行事予定と致しましては、7月か8月にキャンプ、10月下旬と12月初旬に講習会やクラブ大会を予定いたします。

また、12月のクラブ大会終了後に忘年会も予定いたします。

中国地区はフリスビードッグの後進地区ではありますが、現在急激な勢いでフリスビードッグ人口が増え続けています。

まだまだ、ビギナーの方々が大半を占める設立から2年しか経っていないクラブですが、その中にはファイナリストチームも数チーム存在し、各大会において素晴らしい活躍をしています。

中国地区においても、今後益々盛んなドッグスポーツに位置付けされてくるものと思われます。

クラブ瀬戸内のスタッフやメンバーの方々是非常に親切な方ばかりです。

いろんな方々の経験や体験を聞きながらレッスンする事は上達への一番の近道だと思います。

皆さんもクラブ瀬戸内のメンバーに加わり、みんなで楽しくレッスンし、早くフリスビードッグの楽しさや素晴らしさ、そして喜びを味わって頂きたいと思います。

クラブ瀬戸内クラブ長 田口久善

クラブ四国

思い起こせば…

何の気なしに、フリスビーというおもちゃを手にして…買ってみた。ひょいと投げてみた。なにになにそれ？ボールより楽しいかも？わくわく♪ 我が家のwanがフリスビードッグになった瞬間です。（笑）

この、感動を伝えたく設立しました。

愛犬とスポーツを楽しむフリスビードッグ。

フリスビー1枚で、愛犬との絆は今までの何倍も強いものになります。

四国はまだまだフリスビードッグ競技人口の少ない地域です。（そう、ユースオープン狙い目!!）

私たちは大会への参加、練習会の開催等を通してもっともっとこの四国で、愛犬とスポーツを楽しむ人を増やしていきたいと思っています。

クラブ四国クラブ長 西澤賢祐

クラブ北九州

まだまだ出来たてほやほやのクラブです。

ホームページもまだ出来ていません。

クラブ長からして、PC音痴で、人間はたっぴりと年季がはいっているのですが、フリモクラブもこれからです。

今年、発足記念で初めて大会を北九州・門司で開催していただき、やっと一歩踏み出したところです。

練習場所も会場もなかなか見つけ出せず大変ですが、皆さんに少しずつ理解していただこうと思っています。

福岡の仲間とともにフリスビードッグの輪を通じて、仲間の和を増やしていきたいと思っています。

ルールを守り、楽しくやろうがモットーです。

これからも、よろしくお願いいたします。

クラブ北九州クラブ長 河上徳次

クラブ熊本

2002年2月1日付けで新生クラブ熊本が発足して1年半になります。

何にも実績のないチームがクラブを引き受けたとしても、果たして運営して行けるかどうか大変心配でしたが、どうにかここまで来ました。

まだ新人さんが多いクラブですけど、それだけに未来が楽しみに思えます、今後ファイナルへ送り込める選手を育てて行くのが「夢・目標」です。

「思えば叶う！」の意気込みで前進する「火の国軍団・クラブ熊本」を宜しく！

クラブ沖縄

クラブ沖縄の岩元です。

JFAの南端のクラブ沖縄です。

まだまだ発足して間もないクラブですが、青い空、青い海と素晴らしい自然の中で愛犬と楽しんでいます。

チャンプルー文化の沖縄でひととき違ったクラブを目指し頑張ります。

沖縄旅行の際にはぜひ愛犬も一緒に！

クラブ沖縄クラブ長 岩元健一

HP 一覧表

■JFA関東本部

<http://www.jfa-kanto.jp/>
kantou@frisbeedog.co.jp

■JFA関西本部

<http://www.tcnweb.ne.jp/~jfkansai/>
kansai@frisbeedog.co.jp

■JFA千葉支部

<http://www.remus.dti.ne.jp/~gumchan/>
chiba@frisbeedog.co.jp

■JFA神奈川支部

<http://members.jcom.home.ne.jp/jfa-kanagawa/club-index.html>
kanagawa@frisbeedog.co.jp

■JFA兵庫支部

<http://www.bunbun-tails.jp/jfa-hyogo/>
hyogo@frisbeedog.co.jp

■JFA福岡支部

http://www.setup-jp.net/jfa_club_fukuoka/
fukuoka@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ三重

<http://homepage3.nifty.com/jfamie/index.htm>
mie@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ瀬戸内

<http://city-net.cside.com/setouchi/>
setouchi@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ仙台

<http://jfa.club-sendai.org/>
sendai@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ岩手

<http://www.h3.dion.ne.jp/~jfaiwate/>
iwate@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ札幌

<http://jfa-sp.kh.infoseek.co.jp/>
sapporo@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ茨城

<http://homepage3.nifty.com/frisbee/index.html>
ibaraki@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ和歌山

<http://w-jfa.s22.xrea.com/>
wakayama@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ四国

<http://www.geocities.co.jp/AnimalPark-Pochi/7735/>
shikoku@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ愛知

<http://jfaclubaichi.cool.ne.jp/>
aichi@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ熊本

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Yurinoki/9446/>
kumamoto@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ沖縄

okinawa@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ青森

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jfacluba/>
aomori@frisbeedog.co.jp

■JFAクラブ北九州

kitakyusyu@frisbeedog.co.jp

事務所移転のお知らせ

6月19日より、下記の住所に移転致します。
郵便番号、電話番号、FAX番号に変更はございません。
宜しくお願い申し上げます。

移転先：新潟県新潟市川岸町3丁目17番29号

SKY DOG® SPORT

Vol.4

2003年 JUNE発行

発行所 日本フリスビードッグ協会
〒951-8133 新潟県新潟市川岸町3丁目20-6
TEL 025-234-2100
FAX 025-234-2101

ホームページ
<http://www.frisbeedog.co.jp/>

印刷 新高速印刷株式会社



世界最小、
最軽量を誇り
高出力を実現した
ガスランタン

小型ガスランタンの定
番となったギガパワーランタン
“天”は1998年に発表され、片
手に収まるコンパクトなサイズは
衝撃的なものでした。同時に発
表されたギガパワーガスとの相
性でクラス最高の80Wという高
出力も実現しました。

ようこそ、私たちのフィールドへ。

スノーピークは、テントやクッカーをはじめとしたキャンプ用品などの製造販売を通じ、みなさまに「新しいアウトドアライフスタイル」を提案しているメーカーです。5月23日、はじめての直営店を東京「晴海」と福岡「太宰府」にオープンいたします。店頭で並ぶフルラインナップの商品を実際にお手にとっていただき、私どもの提案するアウトドアライフスタイルをご実感いただければ幸いです。

Snow Peak Store

5/23 [fri]

2店同日 OPEN!!

株式会社スノーピーク

■本社:〒955-8616 新潟県三条市三貫地958 tel.0256-38-1110 fax.0256-38-1015
■大阪営業所:〒532-0011 大阪市淀川区西中島7丁目7-2 新大阪ビル西館705号 tel.06-6307-3258 fax.06-6307-3259
■東北営業所:〒021-0041 岩手県一関市赤荻字萩野13-4 tel.0191-33-2552 fax.0191-33-2550

URL:<http://www.snowpeak.co.jp>

Snow Peak Store
outdoor lifestyle creator

晴海

03-5548-8777

〒104-0053 東京都中央区晴海1-8-1
晴海トリトンスクエア 東京トヨペットカーテラス晴海店2F

Snow Peak Store
outdoor lifestyle creator

太宰府

092-587-0450

〒816-0912 福岡県大野城市御笠川5-5-21
CAMP-2太宰府インター店内

人間の寿命が長い理由のひとつは、食事から摂取するたん白質と脂肪が、理想的な比率であるからと言われています。私たちの70年にわたる研究の集大成であるプロプランは、たん白質と脂肪のバランスを、分子生物学や免疫学など様々な視点から徹底的に分析し決定しています。年齢や状態に合わせて最適な比率で配合された栄養は、効果的に愛犬の体のスミズミに行き渡り、より長く健康を支えていきます。あなたと愛犬の幸せが少しでも長続きするように。長い眼でみれば、プロプラン。ヒントは、人間の寿命の長さにあります。

人間の一生と同じ、と考える。



栄養がスミズミで行き渡り、愛犬を守る。
ピューリナ プロプラン、日本登場。



【子犬用】 【成犬用】 【シニア犬用】

毎月1,000名様「プロプラン パピーお試しセット」プレゼントキャンペーン実施中!
プロプラン子犬用のサンプルをプレゼントいたします。ご希望の方は www.proplan.jp からご応募下さい。